

施策評価シート(平成27年度評価実施)	担当部課名	産業環境部 観光商工課	関連部課名	
基本目標	賑わいと元気あふれるまちづくり【産業】			
施策名	観光			
観光交流立市宣言を踏まえて特色ある観光地づくりを進めるために、海岸線等を活かした特色ある観光コースの整備、農工商などと連携した観光振興、ボランティアガイドなどの観光まちづくりへの市民参加の促進、観光事業者の育成などを進めるとともに、修学旅行やコンベンションなどの誘致、外国人観光客の受入体制の整備、情報発信の強化などの取組を推進します。				
施策が目指す蒲郡市の将来の姿				
<ul style="list-style-type: none"> ●海のみち・湯のみちの蒲郡独自の地域資源を活かした特色ある観光地として多くの観光客が訪れています。 ●市民や地場産業との連携、他の地域との広域的な連携が効果的に進められています。 				

◆具体化した施策の取り組み実績

1 観光資源の整備・充実

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
竹島水族館維持管理事業 (入館者数)	210,603人	235,142人	240,000人
オンパクIN蒲郡事業	94プログラム	117プログラム	95プログラム

※1. 観光ビジョン事業費より拠出

2 観光人材育成の充実

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
観光ボランティアガイド運営事業 (ガイド数)	35人	33人	32人
おもてなし教育事業 (コンシェルジュ数)	840人	926人	1,000人

3 教育旅行・コンベンション・インバウンドなどの誘致活動

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
MICE等助成事業 (助成利用人数)	2,414人	5,573人	5,000人
インバウンド事業	22,597人	38,752人	45,000人

4 観光情報発信の充実

項目	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度計画
オンパクin蒲郡事業	2,000千円	2,000千円	2,000千円

◆評価指標

指標名	区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	将来目標
竹島水族館入館者1人当たりの支出額	目標値	200円	200円	190円	190円
	実績値	199円	232円		平成32年度
オンパクプログラム数	目標値	100	110	95	100
	実績値	94	117		平成32年度
ボランティアガイド数	目標値	38人	38人	35人	45人
	実績値	35人	33人		平成32年度
蒲郡観光交流おもてなしコンシェルジュ数	目標値	800人	900人	1,000人	1,200人
	実績値	840人	926人		平成32年度
MICE等助成利用人数	目標値	4000人	4,000人	4,500人	5,000人
	実績値	2,414人	5,573人		平成32年度

◆指標の説明・考え方

指標名	説明・考え方
竹島水族館入館者1人当たりの支出額	維持管理費／入館者数
オンパクプログラム数	観光客が蒲郡市内及び周辺地域で体験できるプログラムの数
ボランティアガイド数	蒲郡市ボランティアガイドの会会員数
蒲郡観光交流おもてなしコンシェルジュ数	蒲郡観光交流おもてなしコンシェルジュ検定合格者数
MICE等助成利用人数	教育旅行を含めた団体客誘致のための宿泊利用助成活用人数

◆指標の分析

竹島水族館については、老朽化した水槽の交換などハード面での改修が必要であったため、1人あたりの支出額は増えてはいるが、ただ改修するだけではなく、職員の努力により常に新しいものを提供し、入館者数を増やしている状況である。今後も耐震工事などハード面での支出は必要となってくるが、知恵を絞り、少ない経費で集客アップに繋がることを常に考えている。オンパクプログラムについては、プログラム数を増やすことを重視してきたが、今後は内容を蒲郡市内及び周辺地域で体験できるプログラムを造成し東西三河地方一帯で、宿泊に伴うオプションツアーを作成していく。

MICE等の利用助成については、蒲郡市内の多くの宿泊施設が和室メインの旅館であるため、団体客を誘致する必要があり、団体旅行が少なくなってきた現在、修学旅行や研修旅行といった教育旅行、会議や大会など旅行ではなく宿泊を伴うものであるMICEを増やしていく必要がある。最近では宣伝効果等もあり、順調に伸びている状況です。

施策の課題

竹島水族館においては、職員が中心となり、様々な工夫をし集客を行っている。今後は耐震化などの施設改善等を含めて、長期のビジョン計画を立てていく必要がある。観光客については、温泉だけの集客は困難なため、民間のラグーナテンボスと協力するなどし、今後、さらに様々な機関との連携を図っていく必要がある。また急速に伸びているインバウンド事業についても関係機関と情報交換を強化して行く必要がある。ボランティアガイドは高齢者が多く、新規入会者が増えないと今後自然消滅する可能性がある。ボランティアガイド養成講座を呼び水にするなどし、おもてなしコンシェルジュ合格者からガイドへと導く必要がある。

今後の施策展開

竹島水族館(公共の施設)に民間の手を入れやすくするようにしたり、指定管理者にも負担いただき施設改善をする形を考えていきたい。

オンパク内で提案されたプログラムのうち、一定期間内だけでなく、1年中受付可能なプログラムを創造し、蒲郡市観光協会・ナビテラスまたは旅館で受け付けできるシステムを考えていきたい。

蒲郡市観光ボランティアガイドの会と蒲郡観光交流おもてなしコンシェルジュ倶楽部との連携を図っていきたい。

課長評価	構成事業の進捗状況	B: おおむね計画どおり進行している。
	施策の進め方	B: 一部見直しが必要である。
	コメント	「観光交流おもてなしコンシェルジュ」事業については、評価指標を検定合格者数としており、おおむね順調に推移しているが、その利活用については課題となっている。今後は合格者のスキルアップと参加しやすい事業を検討する必要がある。

部長評価	施策の 進捗状況	B: 目指す将来像実現に向けておおむね計画どおり進行している。
	コメント	地域の活性化施策の一つとして観光振興を考える場合、他地域との差別化を図りつつも費用対効果を考えると広域連携で行うことは必要である。また、インバウンド事業が観光振興の宿泊地を中心とする本市においても重要な案件であり、他地域に遅れをとらないよう積極的に事業展開することが必要である。